

骨太方針09で協参院議員

インフラ、長期視点で方向付け

公共投資は09年度補正予算で積み増しされたものの、当初予算ベースでは削減が続いており、10年度予算の概算要求基準（シーリング）のベースとなる「経済財政改革の基本方針（骨太方針）2009」が新たな焦点になってきた。骨太方針09について自民党の協賛参院議員は、国が実需を創出して経済を下支えるためにも、「多年度で公共投資をじっくり考える必要がある」と強調。10、11年度の2年間にインフラ整備として何をやるかを8月までに明確化した上で、10年度にどれくらいの財政出動を行うかを基本方針に明記すべきだとの認識を示した。

「削減反対」を言うだけでなく、「このような部分を整備する」という前向きな発想が必要と主張する協氏に聞いた。

財政出動の根拠と規模示せ

「削るな」でなく前向きな発想必要



骨太方針の議論への考えを。
「問題意識という意味で素案に書いていること

も間違っている。国が財政出動により実需をつくりださなければ駄目だ」という点が入っている。

私が主張してきたのは、投資的経費は09年度後半と10、11年度の3年ぐらいで考えるべきだということ。本当にやろうと思ったら設計も用地（の手当）も必要になる。単年度ではできないので、5、10年先を見据え、多年度で（公共投資を）考えようと言ってきた。公共事業は09年度補正予算と10年度当初予算を一緒に

議論すべきだと主張してきたが、衆院選もあるので補正予算を早期に成立させることになり、その点には若干、不満が残っている。

「次は10、11年度の当初予算だ。8月までに2年間で何をやるかをきちんと明らかにすべきだ。骨太方針では、その状況に即して『これくらい財政出動をする』と示せばよい。11年度のことではないにしても、10年度については具体的に書かなければならぬ。『機動的』とか『状況を見据えて』という記述では腰が引けている」

投資額を明確に示せというところか。
「投資的経費については、3年とか5年のトータルでこれぐらいのこと

をやる。うち1年分はこれくらいだと明確化しなければならぬ。経済対策としての意味を持つので、来年度は当然、『積極的な財政出動をする。そのためには必要な部分を整備する』と入っていないと駄目だ。削るなどというだけで前向きな発想が乏しい」

「この分野に力を入れるべきだ」という思いは。『個人的に興味があるのはインフラ整備による安全対策だ。老朽化した堤防やポンプ場、水門は重点的に整備すればよい。経済・生活基盤づくりも必要で、これからは人やモノ、情報の移動を

いかに効率的にさばるか。国としての基礎的な力になる。鉄道、高速道路、船、飛行機、リニアも含め、全体的な輸送体系の中で人やモノをどう動かしていくのかは、エコ対策としても重要だ」

「高速道路だって1人1台ではなく、まとめて運んだり自動運転（の技術）だってある。国全体のモノの動きについて方向性を持たせることができれば、日本の物流はすごいことになる可能性もある。総合物流政策などと言った、きちんとしていこう。この3年間で調査費から始めて制度設計にお金を使っても良い。財政出動は、ものを作るだけとは限らない」。